R6.1.7　山梨日日新聞

被災地へすぐにでも

能登地震

県内ボランティア 受け入れ待つ

資機材準備、情報を収集

能登半島地震で被害を受けた石川県内でボランティアの受け入れ態勢が整わない中、山梨県内の民間災害ボランティア団体は被災地の状況を注視している。東日本大震災や台風災害などで被災者を支援した経験を生かそうと、資機材の準備や現地の情報収集などを進めるが、団体関係者には「すぐにでも支援したい」とはやる気持ちも。ただ、交通網が寸断され、安否不明者の捜索活動が続く能登半島の状況に思いをはせ、「今は準備して待ちたい」と言葉に力を込める。〈社会部、地域報道部〉

＝関連記事1、3、17面

被災地支援の派遣要請に備えてブルーシートなどの準備を進める職人ら
＝大月市猿橋町殿上

「被災地は余震が続き、いまだ混乱のさなかにある」。物資や人員の輸送のため、ボランティアバスの運行を計画している一般社団法人「リバイブ・ジャパン」（韮崎市）の野口正人代表は、石川県内の被災地でボランティアの受け入れ態勢が整わない状況を冷静に捉えている。「今は準備して待ちたい」

既に被災地に入った個人ボランティアや現地の関係者からは、「道路が損壊して車の乗り入れが困難な場所が多い」との情報が寄せられているという。2011年の東日本大震災や16年の熊本地震などで支援に携わってきた野口代表は「半島という道路が少ない地理的な条件もあり、今回の被災地はアクセスが困難。限られた道路で緊急車両の妨げになるのも避けたい」と話す。

現在は被災地の情報収集に注力し、石川県の受け入れ態勢が整い次第、公式サイトでボランティアバスの協力を募るという。準備を進める中でも報道で被災者の悲痛な声に接し、「本当は今すぐにでも支援に行きたい」と本心を吐露した。

石川県では、安否不明者の捜索や救助活動が行われているほか、余震の可能性もあるとして、ほとんどの自治体がボランティアを募集していない。加賀市は募集を開始したが、市内在住や在勤者に対象を限定。石川県は「募集していない市町での活動は控えてほしい」と呼びかけている。

6日に石川県七尾市にミネラルウオーターやカップ麺を届けた富士吉田商工会議所によると、現地では受け入れ場所が急きょ変更になるなどの混乱もみられる。青年部の白須一政会長(49)は「あちらこちらにぺしゃんこになったままの車や完全に倒壊した家屋が並び、言葉にできない悲惨な状況」と語った。

18年の大阪北部地震や19年の台風15号で被害を受けた千葉県などで被災した住宅に、雨漏り防止のブルーシートを掛ける活動をしてきた一般社団法人「全国災害復旧職人派遣協会」（本部・大月市）は全国にいる会員約180人に対し、要請があり次第、出動できる態勢を整えるよう通達した。出動に備え、職人らはブルーシートや材木などの資機材の準備を進めている。

協会代表理事を務める日本ステンレス工業（大月市）の石岡博実社長は「被害が甚大で、いまだ全容が把握できていない状況。先陣隊として10人程度を被災地に派遣できる予定で、要請があり次第、復旧支援に向かいたい」と意気込んだ。